

「青年海外協力隊」

秋山 真輝

AKIYAMA Maki

差別に立ち向かう
人に共感する

2月14日はバレンタインデー。恋人たちが愛を誓い合う日として、世界各地でさまざまなイベントが催される。

この日、中米のベリーズにある高校の校庭では、望まない妊娠の予防をテーマとしたイベントが行われていた。

「妊娠を防ぐために有効なものは何でしょうか？」
20枚ほどのカードが並べられ、生徒数人が答えを探しているブースがあった。

JICA Volunteer Story

PROFILE

1985年東京都出身。大学卒業後、東京YMCAに就職。退職後、2012年6月から青年海外協力隊(エイズ対策)としてベリーズで活動中。

「HIV／エイズから 自分を守るようになってほしい」

HIV／エイズの感染率が中米で最も高いベリーズ。
秋山真輝さんは、子どもたちが楽しく学びながら予防法を身に付けられるよう、教材作りやイベントの開催に取り組んでいる。

「コンドーム」。1人の生徒がカードを差し出した。「正解です」。そう笑顔で受け取ったのは、青年海外協力隊の秋山真輝さん。ベリーズの人たちに性感染症や望まない妊娠の予防に必要な知識を持ってもらいたいと、同国最大の都市ベリーズ・シティの学校で啓発活動に取り組んでいる。

大学2年生の時、授業の一環でスロバキアに暮らすロマの人々を訪ねた秋山さん。彼らの生活を見て驚いた。現地の子どもたちと同じ学校で学べなかったり、職に就けなかったりと、あからさまな差別を受けていたのだ。「私の大学の先生は、学校の設備を整えたり、就職を支援する活動をしていました」。将来自分も人の役に立つ仕事がしたいと思った。

途上国の課題を学ぶ中で、特に問題意識を持ったのがHIV／エイズ。さまざまな事情で、感染から身を守れない人がたくさんいると知ったからだ。大学卒業後は「日本でHIV／エイズに悩む人の力になりたい」と、週末にボランティアに取り組んだ。感染の疑いがある人たちの相談に乗り、検査を受けるよう後押しした。そして社会人4年目、そんな経験を途上国で生かすのは今だと、学生時代からの夢であった青年海外協力隊への参加を決めた。

楽しく学べば
恥ずかしくない

ベリーズは、中米でHIV／エイズの感染率が最も高い。秋山さんはその理由を探ることにした。「検査を受けることが恥ずかしい、コンドームを使うことは男らしくないと考えられていました」。正しい知識を持つてもらわなければ感染が広がってしまう。現地のNGO、ベリーズ家族生活協会(BFLA)に配属された秋山さんは、同僚たちと一緒に学校での講義や



a. 青少年たちと性感染症や望まない妊娠の予防について話し合うテレビ番組に出演。秋山さんは脚本作りを手伝った
b. メラニーさんと作った「コンドーム傘」。HIVを雨に、コンドームを傘に見立て、予防の効果を説明した
c. 「HIV／エイズの感染リスクが高い行為は何でしょう?」。秋山さんお手製の資料を使って話し合う生徒たち
d. 広島平和記念資料館から戦争や原爆の資料を借りて、ベリーズの図書館に展示。400人が集まるほど好評だった



高校で行われた性教育のイベント。かるたのように、質問の答えが書かれたカードを探す生徒と秋山さん



イベントの開催などの啓発活動を始めた。
そして、秋山さんはあることに気が付く。「使っている教材は実情に合っていない上、楽しく学べるものが不足していました」。早速、同僚のメラニー・モンテロさんに新しい教材を作ろうと話をもちかけた。しかし反応はいまひとつ。無理もない。ただでさえ忙しいのに、新しく作るとなると仕事が増えるからだ。「状況を改善するお手伝いができれば」と思い日本から来たのに…。つらかったです。

しかし、秋山さんはあきらめなかった。それなら何か違う形で、自分のアイデアを発揮できないかと考えた。地域の若者たちを対象にしたイベントでは、「泣き止まない自分の赤ちゃんに手を焼く高校生」と「映画を見て泣く高校生」を比較した資料を作るなど、若くして赤ちゃんを産むとはどういうことかを伝えた。それを見ていたメラニーさんは「とても芸術的なアイデアね!」と、秋山さんの活動に少しずつ理解を示してくれるようになった。そして「マキの活動を見ていて、子どもたちにきちんと伝えるためには、もっと魅力的な教材が必要だと実感したわ」とメラニーさん。2人の間に生まれた信頼関係が彼女の心を動かしたのだ。

「分かりやすいようにイラストを入れましょう」「ビデオを作って流してみては?」。来る日も来る日も、アイデアを出し合った。一番こだわったのが、子どもたちが楽しんで学べることで。そうして、かるた形式のカードゲーム、覚えるべき言葉をうめるクロスワードパズルなどが完成した。

そして今、秋山さんのアイデアが詰まった教材は、地域の学校の授業などでも使われている。この国のHIV／エイズの感染率を減らしたい。秋山さんの思いを受け取り、ベリーズの人たちの行動にも変化が起き始めている。